

礼拝：2021年8月29日 聖霊降臨節第15主日

交読：交読詩編119編105～112節

聖書：詩編104編24～35節

マタイによる福音書13章44～52節

説教：「新しい光の下で」 柳澤 宗光

共観福音書には、多くの譬え話が、語られています。共観福音書の中心をなす文章形式とも言えます。いうまでもなく、主イエスが、「たとえによらないでは何も語られなかった(マタ13:34)」ためです。今朝、与えられた御言葉は、13章の最後に語られた「天の国」についての譬え話です。この譬え話は、主イエスが、群衆を後に残して家に入り(マタ13:36)、弟子たちだけに、お語りになったということです。ここで語られた、隠されていた〔宝〕は、それを思いがけず見つけた人の、宝なのです。また、真珠のことを学び続けた、真珠の専門家でなければ〔高価な真珠〕を見つける事が出来なかったということです。ここには、〔宝〕を「偶然、見つけた人」と、〔高価な真珠〕を「探し求めて、見つけた人」が描かれています。しかし、〔宝〕も、〔高価な真珠〕も、見つけることが出来るのは、わたしたちの力の及ばないところにあることを、わたしたちは知ることになるのです。そして、〔宝〕を見つけた人が、その〔宝〕を公然と自分のものにするために、喜んですべてを犠牲にした態度です。また、〔高価な真珠〕を見つけた人も、喜び、すべてを犠牲にしました。

この譬えで、主イエスははっきり言われたことは、〔神の支配〕、〔天の国〕は、隠されたものだと言うことです。そして、世の終わりには、「正しい人々」と、「悪い者ども」(マタ13:49)がより分けられるのです。ですから、弟子たちには、「天の国の専門家」、「天の国の学者」(マタ13:52)であることが求められているのです。

44節の「天の国の譬え」の最初に出てくる場面は、畑の土の中に〔宝〕が「隠されている」と言う場面です。ここで、譬えられている〔宝〕とは、胸の板に書き記され、決して消えることのない御言葉です。その御言葉の一つ一つが、わたしたちにとって、心に遺る〔宝〕なのです。しかし、その〔宝〕は、常に「隠されている」ことが語られています。ここには、二人の登場人物がいます。宝を「隠した人」がいます。ですから、「見つけた人」を語ることが出来るのです。しかし、ここには〔宝〕が隠されているのを「見つけた人」一人しか描かれていません。〔宝〕を「隠した人」については、描かれていませ

ん。「隠した人」を探す手がかりは、25章14節以下に語られています。「タラントンの譬え」として描かれています。主人から、財産を預けられた三人の僕の譬え話です。三人の内、主人からタラントンを預けられた二人は、預けられているうちに預かったタラントンを倍に増やします。主人は、『忠実な良い僕だ。よくやった。(マタ25:20, 23)。』と一緒に喜んでくれたのです。しかも、今度は、より多くのものを管理させてくれたのです。しかし、三人目の僕は、預かったタラントンを全く増やしません。三人目の僕は、預かったタラントンを地の中に「隠しておいた」からです。確かに、当時の人々は、宝の、一番安全な隠し場所は、地中だと考えられていたのです。常に戦場となる危険にさらされている所では、地の中が最も安全な場所だと考えられていました。住民は貴重品を地下に隠し、いつかの日、またもどって、それを取り戻すことができるようにと願いつつ避難したのです。この「タラントンの譬え」で、語られているのは、単なる金銀財宝でないことは明らかです。ここで、タラントンは、命にとって大切で、命を神の国へ導くものなのです。永遠の命へと導くものなのです。ですから、主人が信頼し、預けたタラントンなのに、増やそうともしない僕の態度に主人は怒ったのです。そこで、主人は、『怠け者の悪い僕だ(マタ25:26)』と叱り、預けておいた「タラントンを取り上げてしまった(マタ25:28)」のです。そして、タラントンを増やした「忠実な良い僕(マタ25:20, 23)」に与えたのです。ここで、タラントンを与えられた「忠実な良い僕」とは、畑の土の中に隠された〔宝〕を「見つけた人(マタ13:44)」も、その1人であることに間違いはありません。御言葉は、「だれでも持っている人は更に与えられて豊になるが、持っていない人は持っているものまで取り上げられる(マタ13:12, マタ25:29)」と、警告されているのです。

この譬え話の第一の教えは、〔宝〕が、毎日の仕事間に見つかったということです。確かに、掘っている人の足に偶然、宝が当たったのであろうが、それは、毎日の仕事をしている間に起こったものです。この人は、土地の表面だけでなく、中まで深く掘っていたから、〔宝〕を見つけたのでしょ。畑仕事を勤勉にしていたことを、うかがい知ることが出来ます。それは、たしかに「思いがけない」、「意外な発見」であった事は事実だと思われま。〔宝〕は、どこにあるかも分からない、あるいは、見つからないかも知れない土の中に、隠されているのです。わたしたちにとっては、それが見つかったことは、〔偶然〕だったと思えることなのです。しかし、神はその勤勉に働き続けた人に〔宝〕として見つけ出させたのです。福音という〔宝〕は、日常生活の中で、見つかることを教えています。決して、教会の中でしか見つけられないものではありません。しかも、人生で一度、〔宝〕を見つけたら、それで終わりではありません。何回も、何回

も、日常の生活の中で、福音との新鮮な出会いを繰り返すことを、わたしたちは経験しています。

「良い真珠を探している商人 (マタ 13:45)」、すなわち、真珠の専門家は、すでに〔真珠〕の価値を十分に理解しています。わたしたちにも、「神聖なものを犬に与えてはならず、真珠を豚に投げてはならない (マタ 7:6)」と、〔真珠〕の意味するものが何であるか知らされています。この真珠商人は、更に価値ある真珠があるはずだと、探し求め続けたのです。〔宝〕を、日常の生活の中で、偶然〔宝〕を、「見つけた人」が、更にこの真珠の専門家のように、更に求め続ける人となることは、良くあることです。真珠商人も、全財産を投げ打っても、惜しくないほどの真珠に出会うとは、予想していなかったにちがいありません。すると、ここにも、「思いがけない」、「意外」な発見があったわけです。この二つのたとえに共通することは、この「意外性」です。福音は、確かに与えられる者にとって、福音なのです。しかし、譬え話で、見いだされたものは、人間の思いを、はるかに越えているのです。

この譬え話の第二の教えは、天の国に入るためにはどんな犠牲を払っても良いということです。では、譬え話で語られている〔宝〕に見合う対価とは、なんであろうか。44 節、46 節では、「持ち物をすっかり売り払い (マタ : 13:44,46)」と語られています。しかし、それは、現実的な対価ではなく、「絶対的な服従を決意した」と、読みとれます。全てを投げ捨て、自分の過ぎた日々、自分の十字架を背負い、主イエスに従うのです。それ以外に、この世における心の平和と、来るべき世における光栄を得る道はないという確信です。「神のみこころ」を受け入れ、これを行なうことは、今日までの財産、地位、名誉を捨て去る程の価値あることなのです。天の国に入るとは、神のみこころを受け入れて行なうことです。それは、神の与えて下さったものが、すべての思いを越えているからです。これらが、神のみ業であることが、この「意外性」を生み出すのです。畑の中に隠された宝を「見つけた人 (マタ 13:44)」は、「偶然」、行き当たったのです。人間のほうからいえば、確かに「偶然」である事に違いありません。しかし、神からいえば、それは、「必然」です。なぜなら、人間の救い、〔恵み〕は、すべて、神に予定されていることだからです。しかし、「恵みの意外性」ということは、〔恵み〕によって起こったことが、「意外」であったということではありません。本来、〔恵み〕は、人間にとって、いつの時でも「意外」なものです。もし、〔恵み〕が、期待どおりに得られたとしたら、それは、もはや、〔恵み〕ではありません。〔恵み〕は、常に、それを受けた者の予想をはるかに越えたものであるはずで、受けた人には、まったく「意外」である、と感じられ、また、またこういう幸運にあうことは、「偶然」と

しか考えられないのです。予想がたたないことであるから、それが、どうしてそうなるかが、わからないために、これは、「偶然」であろうと考えてしまうのです。しかし、これを与える神の側に、想像を絶した「確固たる意図」があった、と信じざるをえなくなるのです。それ故に、このような〔恵み〕は、神にとって、「必然」なのです。神の側に「偶然」はないのです。だからこそ、「宝を見つけた人」、「高価な真珠を見つけた人」は、全力をつくして、これを得ようとするのです。話は、いうまでもなく、単なる〔宝〕ではなく、〔神の救い〕であり、〔神の支配〕なのです。そして、〔天の国への招き〕なのです。

しかし、天の国には、全ての者が招かれているのではありません。「世の終わり (マタ 13:49)」にわたしたちは、選別されるのです。終末は、突然、わたしたちの目の前に現れます。終末が、いつ来るのか私たちには、知らされません。だから、「歯ぎしり (マタ 13:50, マタ 25:30)」して悔やむことがないように、日々備えよと言われているのです。この譬え話は、神の計画は、不動であることを告げています。終末の時が、いささかの狂いもなく成就されて行くことを告げています。終末の時、その時を私たちは、決して知る事が出来ないのです。

主イエスは、天の国についての譬え話を終えられたときに、弟子たちに、「あなたがたは、これらのことがみな分かったか (マタ 13:51)」と問います。この譬え話は、群衆には語られず、弟子たちだけに語られました。弟子ゆえに許され、群衆ゆえに、許されない事があるのです。主イエスは言葉を続けて、「天の国のことを学んだ学者は皆、自分の倉から新しいものと古いものを取り出す一家の主人に似ている (マタ 13:52)」と言われます。主イエスは、「天の国のことを学んだ学者 (マタ 13:52)」、「天の国の専門家」として、歩み始めるようにと弟子たちに、命じているのです。〔主イエスの言葉〕によって、以前から知られていた事にも、〔新しい光〕があてられたのです。主イエスは、すべての事、すべての知識に、〔新しい光〕を当て、真のあるべき価値を明らかにしているのです。

今、わたしたちは、〔新しい光〕の下で、福音を聞く恵みを戴いています。わたしたちには、今、この〔新しい光〕の下で、今までにもまして、力強く、再び豊かに歩み始める事が赦されているのです。

讚美 : 讚美歌 5 5 2

献金

主の祈り

黙禱